

## 平成 30 年度第 1 回大磯町行政改革推進委員会結果概要

- 日時 平成 30 年 11 月 22 日（木）午前 10 時 00 分から午前 11 時 30 分
- 場所 大磯町役場本庁舎 4 階第 2 委員会室
- 出席者（委員長）出雲委員（学識経験者）  
（委員） 近藤委員（町政等に関する識見者）  
増井委員（町政等に関する識見者）、佐藤委員（町政等に関する識見者）、  
沖山委員（公募町民）
- 事務局 参事（政策担当）、政策課長、政策課担当職員
- 傍聴者 0 名

○議題 （1）行政経営プラン実施計画（進行管理）書【平成 30 年度版】について

○会議記録

### 1. あいさつ

（1）委員長あいさつ

#### ◆委員長より次のとおりあいさつ

初めて参加される方も、継続の方もいらっしゃいますが、今年度もよろしくお願いします。

（2）新任委員紹介

◆公募町民の委員であった脇國廣氏が、町の代表監査委員に就任することに伴い、辞任届が出された。改めて公募町民の募集を行い、沖山雅彦委員に就任いただくこととなった。

### 2. 議事

（1）行政経営プラン実施計画（進行管理）書【平成 30 年度版】について

◆資料 1、資料 2、資料 3－1、資料 3－2 に基づき、事務局より行政経営プランに基づく平成 29 年度の取組み成果について、行政経営プラン実施計画（進行管理）書【平成 29 年度版】からの変更点を中心に報告した。あわせて、平成 29 年度の会計状況の推移について説明し、次のとおり質疑応答が行われた。

◎ 本日の資料は今後どのように使われていくのか。（委員）

○ 資料 2、3 については本日の会議のための資料である。資料 1 の実施計画（進

行管理)書は年度ごとに更新し、ホームページ等に掲載し公開していく。(事務局)

- ◎ 資料1 P23 4の広告料について、結果として目標額は達成できていないわけだが、達成できなかったことではなく、行ったことを重点的に記載しているので、修正する必要があるのではないかと感じる。(委員)
- ◎ 当初の予定では実施予定だったものができなかった等の記載を加えた方がよいということか。(委員長)
- ◎ そうである。さらに、広報の広告も現状は少ないと感じるので、拡大していくなどの努力できることがあると感じるので、そのような内容を入れてはどうか。(委員)
- ◎ 資料1は修正可能か。(委員長)
- 修正できるので修正したい。(事務局)
  
- ◎ 資料3-2のEのところに効果額とあるが、この金額はどれとどれの差額か。(委員)
- 効果額については、資料1のP8~P16の各取組みの実績額を資料3-2の表に当てはめるとどこに入るか、ということをお示ししている。P8以降の各表の「効果額」の「実績」欄の平成29年度分の金額が該当する。(事務局)
- ◎ その場合、資料1 P23の説明1などを見ると、景気変動の影響で、推計で見込んでいた収入額よりも増えているとなっているが、効果額としてはマイナスということに違和感を覚えるが、それはいかがか。(委員)
- 行政経営プランの町税に関しては、効果額の測り方を収納率で見ている。効果額の算出の基準は、財政推計時の収納率である。平成29年度については、収納率は推計時よりも下がっているが、徴収すべき町税全体が増えているので、収納率が下がっても実際に徴収することができた税額で見ると増額しているということになる。しかし、取組みの効果額という点で見ると、収納率をもとに金額を算出しているため、効果がマイナスになる。(事務局)
- ◎ P8目標額が上がっているのはなぜか。(委員)
- 収納率を上げていく目標となっているためである。(事務局)
- ◎ P15の国民健康保険税の取組みについては、効果額がプラスになっている。町民税を滞納している方は国民健康保険税も滞納していることも考えられるが、町税の収納率が下がっているのは、大口の滞納案件が影響しているのか。(委員)
- 収納率という点でみると、国民健康保険税は前年よりも高くなっている。町税では、固定資産税の収納率などが低くなっていることもあり、下がっている。(事務局)

- ◎ 町税の収納率が想定よりも低くなったということだが、類似町村との比較はどのような状況か。(委員)
- 湘南四町で比較してみると、平成 29 年度の町税の収納率は、葉山町（現年分 99.45%、過年度分 48.95%、全体 98.68%）、寒川町（現年分 99.19%、過年度分 36.31%、全体 97.93%）、二宮町（現年分 99.45%、過年度分 40.6%、全体 98.44%）となっている。また、大磯町の平成 28 年度は、現年分 98.3%、過年度分 21.4%、全体 94.3%となっている。(事務局)
- ◎ 平成 29 年度は、かなり過年度分が下がっているということなので、努力する必要があると認識していただきたい部分である。(委員)
- 過年度分については、滞納額の約半分を数件の案件で占めてしまっているという事情がある。また、国税の徴収との絡みという特殊な状況や、不納欠損もすぐにはできないなか、徴収率が延びない要因にもなっている。しかし、現年の徴収率を検討していく上でも、PDCAを回していくなかで、目標の収納率を達成していないということを所管課が認識し、見直していく必要がある。また、所管課だけでなく、組織体制を見直すという部分もあると認識している。(事務局)
- ◎ 「滞納整理の徹底」とは、具体的にはどのようなことをするのか。(委員)
- 「町税等滞納削減のための第2次行動プラン」を策定し、平成 29～31 年度の3か年の計画で進めている。町税のほか、国民健康保険税料、後期高齢者医療保険料、介護保険料、下水道事業受益者負担金、保育園保育料なども含めての計画となっている。科目ごとに、取組みを位置付けている。  
全体にかかる部分では、「口座振替の推進」や、「全庁体制による訪問納付勧奨」として一定の期間、全庁的な取組みとして訪問納付勧奨を行うこと、「滞納整理の早期着手」、「滞納処分の実施」、「税務課収納係職員との連携」として、他の科目の職員が研修等を通じて税務課職員からノウハウを吸収して全体のレベルアップを図っていくことなどを定めている。(事務局)
- 県税職員の派遣や県税OBを採用していたが、そのような人材を確保するのが難しいという状況がある。また、町職員 260 人のうち、事務に従事している職員が 170 名くらいである。そのなかで7年目までの職員が 40%を占めている。新たに採用している職員に対し、早急に職員のスキルを上げていくことが課題である。滞納整理のノウハウという点だけでなく、役場の組織全体として直面している問題である。今後、入庁から年数が浅くても、経験があり年齢が高い職員については、主要ポストについてもらうことで自覚と責任を促し、能力の向上を図る等のことも必要ではないかと検討している。(事務局)
- ◎ 国税のノウハウを吸収する手立てなどは考えているか。(委員)
- 国税については現状行っていない。人員確保については、県税に限らず国税〇

Bについても門戸は開いている状況ではあるが、今のところ行っていない。(事務局)

○ 町税と県税は性質が似ているので、県税職員のノウハウがそのまま町で生かしやすいというメリットがあり、県税の職員でこれまで進めてきた。(事務局)

◎ 今後、県の職員数も少なくなっていくなかで、県税OBの人材確保が難しい状況は続くと思う。人材を育成するか委託をするか、ということを考えていく必要があるのではないか。育成には時間がかかるが、先ほど話のあった研修もそうであるが、来てもらうだけではなく、こちらから出向くということもあるのではないかと思う。(委員長)

○ 滞納の段階になると、経験を積んでいる職員がいることが重要になると考え、県税OBを採用するという方法をとってきた。職員のスキルを上げることもそうであるが、その他のこととして、県でも取組みを始めているLINE Payなど、税を納める方法を広げるということもあると思う。また、専門家(サービサー)や弁護士などに委託できる部分を委託するということもある。費用はかかるが、それを上回る歳入が確保できれば可能になってくる。新たな手法も検討していかなければならない段階にあり、担当課でも検討を進めていると聞いている。(事務局)

○ 現在、徴収に限ったことではないが、県町村会で定年退職した町村職員OBを、もともといた町村で再任用という形ではなく、違う町村で退職された方を、各町村のウィークポイントにマッチングするという取組みも始まっている。それらも活用して、町のウィークポイントを埋めていくような努力をしていきたい。(事務局)

◎ 民間企業でも多くの場合、定年退職後、そのまま同じ会社に再雇用されるという形をとっている。それだけではなく、それまでの仕事の経験を評価してもらい、定年してから他の会社で中途採用という形で再就職ケースが出てきている。歴史の古い会社でもそのようなことが始まっている。外から人を入れるということで組織が変わるという部分もある。町にも当てはまることがあるのではないか。最近の新卒の学生の就職先を選ぶ視点でも、「社会貢献」という観点が上位に上がってきている。そのような流れも使って、町の採用にもいろいろな能力のある方を活用するということを考えてみてはどうか。(委員)

○ 町でも、任期付職員や短時間勤務任期付職員等、フレキシブルに対応している。中途採用なども進めているが、景気が上向いてきている中で、応募者の減少や、採用したい人材がいても他の自治体へ流れてしまうという難しさがある。条件面等、整えられることは対応できるように考えなければという認識も持っている。(事務局)

- ◎ 町職員の若い世代が 40%というのは、町組織全体の問題である。県町村会の制度を活用するなど、経験のある人材を確保するというのは非常に大きな課題だと思う。国にも制度改正の働きかけをするなど、全体で考えなければならないのではないか。(委員)
- ◎ 大きな財源不足の課題としては、国民健康保険税があると思う。新しい制度が始まっていると思うが、どのような見通しになっているか。(委員)
- 今年度から県が保険者に加わり、それによって財政規模が大きくなっている。しかし、当初、国の制度設計で目指していた、保険税率を県内一律にしていくことは、現状行われていない。全国的に見ても一律の保険料率にすることができた都道府県はない。財政規模が市町村によって異なるなかで、給付の状況や徴収率の状況に差があり、現状、均一の保険税率を設定することはできないと聞いている。(事務局)
- ◎ 資料 1 の P 15 の目標値は実際に達成できそうな数値か。(委員)
- 保険税率については平成 29 年度に引上げを行い、さらに平成 30 年度でも引き上げ、実情に合わせた目標値となっている。保険税率については、県から市町村ごとに納付金の額が定められ、その納付金が払えるように保険税を賦課するという流れになっている。平成 31 年度分についても、1 月頃に県から納付金の金額が示される予定で、それを受けて審議会に諮問する予定であり、平成 31 年度も税率の改正を行う予定と聞いている。資料 1 の P 15 の目標金額については、現状の見込みのなかで想定している金額である。(事務局)
- ◎ 県は、ある程度収納率を均一化していきたいと考えているような話を聞いている。平塚市では、徴収率を上げるため人的な増加もしているようだが、大磯町はどうか。(委員長)
- 一定以上の徴収率に達すると、インセンティブが与えられるような制度になっているが、現状、大磯町はそこまでは達していない。今後、そのレベルまで上げていきたいと考えていると聞いている。(事務局)
- 国の施策として、徴収率が上がった場合、国からの調整交付金を多く受けられる制度がある。町としても目指しているところであるが、今のところ至っていないというのが現状である。(事務局)
- ◎ 国民健康保険税に関しては、大きな財源であるので、今後も頑張ってもらわなければならない。(委員)
- 県も、当面の間は保険税率について均一化しないと示しているので、しばらくはこの状況が続くと思われるが、均一化を図ると市町村によっては、税率が下がるところもあれば上がるところもでてくる。今のところは、市町村ごとの凸凹を

調整するのが難しいような状況である。収納率についてもインセンティブも与えながら、徐々に平準化を図っていった上で広域化に移行したいと考えているようである。(事務局)

- ◎ 「その他の自主的な財源の確保」として、広告料収入、ふるさと納税、クラウドファンディングなどがある。額としては小さいかもしれないが、自分達のアイディア次第で努力できると思うので、大磯というブランディングを活用して、大磯の良い面をもっとアピールしていけば、さらに取組みができるのではないかと思う。町民としても、町がいいなと思われて嫌な気がする人はいないと思う。今後も工夫の余地があるのではないか。(委員)
- 広告料収入に限ると、現在は、町広報、HP、町の封筒の裏面の広告、ごみ収集カレンダーの広告掲載しか取り組めていない。ふるさと納税については目標を達成している。また、初めての試みで、現在、いそべえの着ぐるみ更新費用のクラウドファンディングの取組みを行っている。クラウドファンディングは歳入を確保するだけでなく、大磯町自体を発信できるメリットがある。町内では、昨年、旧吉田茂邸が開館したり、現在、明治 150 年記念の邸園の整備が進められるなど大きな事業がある。町を発信していく、ということも考えなければならないと思う。さらにネーミングライツなど手がけられることがあると思うので、今後でもできるところから進めていきたい。(事務局)
- ◎ 以前に、新規に立ち上げる合弁会社に出向したことがあるが、新しく作る会社であるため知名度がないなかで、メディアを含めた「広報」活動の効果が波及して「広告」につながるということを経験した。ぜひ、メディアもうまく活用した全国への広報活動が進められるとよいのではないか。(委員)
- ◎ 資料 3－2 の特別会計の繰出金の増加の内容は。(委員長)
- 繰出金の増額で一番多いのが下水道事業で、推計からの増額分が約 1 億 5,000 万円、続いて国民健康保険事業が約 5,000 万円、推計より増加している。(事務局)
- ◎ 下水道事業の繰出金が増えた要因としては、使用料の見直し等が関係しているのか。(委員長)
- 推計値からの比較のためという部分もあるが、使用料については、平成 28 年度に見直しを行い、平成 31 年度以降の見直しも検討している。(事務局)
- 下水道事業の繰出金は、基本的にこれまで下水道を整備してきた、地方債発行の元利償還金について、一般会計から繰出しを行っている。整備が現在も続いているなかで、元利償還金はだんだん増えている状況である。今後もさらに整備が

続いていくと、元利償還金は増えていくため、一般会計の繰出金が増えるということとは続いていくと思われる。(事務局)

◎ 資料1のグラフの凡例が見つらいので、少し大きく表示してはどうか。(委員)

◎ 資料2で1(2)「定員・給与・組織の適正化」が、職場環境の改善の取組みのため休止とあるが、職場環境の改善は休止の理由になるのか。給与はともかく、定員と組織については不断に見直しをする必要があるのではないかと思う。(委員)

○ 職場環境を改善し、時間外勤務手当の支給の面や、管理職手当の見直しなどを進めてきた。そういう部分は、行政経営プランの歳出削減の取組みの方向性とは逆に進んでいることとなり、一旦取組みからは外させていただいている。現在、働き方改革の取組みとして、消灯時間の設定等を行っており、働き方そのものの見直しを進めているところである。消灯時間を設定し、労働時間の短縮を進めるために、業務の見直しなども必要となってくると考えている。それら全体が整ってくれば、時間外勤務手当の削減などにつながってくるものと思われるので、行政経営プランの取組みとしても再度位置付けていかなければならないと考えている。しかし、現段階では歳出削減の実績というところまで達しておらず、再度位置付けができていないという状況である。(事務局)

◎ 時間外勤務手当の削減の取組みは、歳出削減の取組みにはならないということか。(委員長)

○ 職場改善の取組みがうまくまわっていけば、それが歳出削減につながっていくことが充分考えられるが、まずは、職場環境を改善する取組みを行い、その上で働き方自体を見直し、結果、歳出削減につながっていくというステップではないかと考えている。(事務局)

○ 中堅職員の退職が続いている状況があるなかで、町のラスパイレス指数を見ると、平成27年度は90.9、平成28年度91.9と、県内で下から2番目という給与水準の低さとなっている。中途退職者が給与の高い自治体に移っていくという状況を見ていると、町も給与自体を少し上げなければならないのではないか、という話がでてくる。しかし、歳出としては増加するため、一時的に行政経営プランの取組みからは外させてもらっている。

また、先ほど申し上げたとおり、職場環境の改善のなかで時間外勤務が減っていけば、それが歳出削減につながっていくということはあるが、それよりも給与の増額がでてしまうということがあるため、それが落ち着いた時点で、時間外勤務の削減や、労働時間削減による電気量の削減などを取組みとして位置付けたい

と考えている。(事務局)

◎ 大磯町は職員数や給与水準を絞り込みすぎという状況があると思う。職員の処遇全体を考え直さなければならないところにきていると思う。(委員)

◎ 今後、平成 32 年度まではこの取組みは一旦外し、新しいプランのなかで位置付けを変えて取り組んでいくということと思う。(委員長)

◎ その他に何か意見はあるか。(委員長)

○ 平成 31 年 10 月から消費税率が上がる予定であり、行政経営プランの取組みで「受益者負担の適正化」があるが、公共施設の使用料の見直しを図らなければならないと考えている。町は、前回消費税が 5 %から 8 %に上がった際には、公共施設の使用料を上げなかった。今回の増税に合わせてどうすべきか検討していくこととなる。現在、財政課で県内の他市町村の状況など確認しているところであり、概要や方針が決まり次第、本委員会でご説明させていただき、ご意見をいただきたい。使用料の改正は、条例改正が必要となってくる。改正する場合は、来年の 3 月か 6 月の議会にかけ、町民への周知を図っていくこととなると思う。次回の委員会の際には、どのように進めていくかお示しできるようになると思うので、ご議論いただければと思う。(事務局)

◎ 公共施設の利用料金に消費税はかかるのか。(委員)

○ 使用料そのものにはかからないが、施設の維持管理費用に関わってくるので、料金設定していく必要が出てくると考えている。(事務局)

◎ 消費税増税という観点もあると思うが、基本的には経費に対する利用料という考え方だと思うので、増税だけではなく維持管理費が上がっているという観点で見るとよいのではないか。(委員長)

以上